

令和2年度 年度末学校評価アンケート結果

福島県立只見高等学校



12月に生徒、保護者、教員を対象とした今年度の学校評価アンケートを実施しました。その結果をお知らせいたします。
(アンケート回収率：生徒68.4%、保護者54.1%、教員100%)

1 アンケート項目および評価方法

以下の4つの大項目の中に各5～6の小項目を設け、4段階(A～D)※で評価しました。

- I 学力および授業の質の向上(教員の授業の工夫、生徒の家庭学習等に関して)
- II 進路目標の実現(進路目標、情報提供、進路指導等に関して)
- III 生徒指導および部活動(服装・頭髪、言葉遣い、部活動等に関して)
- IV その他(整理整頓、生徒の学校生活等に関して)

※
A:「はい」
B:「どちらかといえば「はい」」
C:「どちらかといえば「いいえ」」
D:「いいえ」



2 アンケート結果

※肯定的回答の割合→評価Aと評価Bを足した割合

(1) 各評価者からみた高い評価(各3項目)

順位	項目	肯定的回答の割合	順位		
			生	保	教
生徒	1 あなたの服装・頭髪は清潔できちんとしていますか。	100.0	1	1	1
	2 あなたの言葉遣いや礼儀はきちんとしていますか。	96.9	2	1	1
	2 あなたや保護者が提出した書類(申請)について、学校はきちんと処理していると思いますか。	96.9	2	3	1
保護者	1 あなたのお子さんの服装・頭髪は清潔できちんとしていますか。	100.0	1	1	1
	1 学校の清掃が行き届いていると思いますか。	100.0	8	1	14
	3 あなたや生徒が提出した書類(申請)について、学校はきちんと処理していると思いますか。	98.1	2	3	1
教員	1 生徒・保護者から提出された書類(申請)や徴収金の受付処理及び管理を適正に行っていますか。	100.0	2	3	1
	1 生徒の服装・頭髪は清潔できちんとしていますか。	100.0	1	1	1
	1 生徒の言葉遣いや礼儀はきちんとしていますか。	100.0	2	1	1

※肯定的回答の割合→評価Aと評価Bを足した割合

(2) 各評価者からみた低い評価(各3項目)

順位	項目	肯定的回答の割合	順位		
			生	保	教
生徒	22 あなたは学力の向上に向けて、計画的に家庭学習を行っていますか。	58.5	22	22	22
	21 あなたは進路に関する自分の適性をよく知っていますか。	60.0	21	16	14
	20 あなたは進路実現へ向けて、補習や個別指導に積極的に参加していますか。	63.1	20	21	1
保護者	22 あなたのお子さんは、学力向上に向けて計画的に家庭学習を行っていますか。	53.5	22	22	22
	21 あなたのお子さんは、進路実現へ向けて、補習や個別指導に積極的に参加していますか。	71.2	15	21	7
	19 学校からの進路に関する情報提供は適切だと思いますか。	73.1	17	20	17
教員	22 生徒は計画的な家庭学習を行っていると思いますか。	35.7	22	22	22
	21 生徒の進路目標は明確になっていると思いますか。	78.6	16	18	21
	20 生徒や保護者への進路に関する情報提供は十分ですか。	85.7	19	20	20

3 アンケート結果の分析

I 学力および授業の質の向上(教員の授業の工夫、生徒の家庭学習等に関して)

家庭学習の習慣化は本年度も三者共通の大きな課題となった。次年度に向け、生徒が計画的に家庭学習に取り組めるよう教員が改善策を提示し、生徒・保護者間と連携した指導を模索する必要がある。そのためにも、ベースとなる進路適性と進路希望の三者での情報共有と、それに対応する補習・個別指導・家庭学習のあり方を定期的にチェックするような仕組みを検討する必要がある。

本校ではClassiなどのICTツールがすでに導入済みであるから、有効活用する道を模索したい。いずれにせよ、生徒自身の自発的な学びにつながる方策を、学校、家庭それぞれの立場、関わりの中で話し合い、生徒に伝えていくことが肝要であり、課題(宿題)の量、質に対しても検討していく必要がある。教員が授業方法の改善に努めることで高校教育の質を保証しながら、学力層に応じた知的好奇心を引き出す工夫を模索していきたい。

II 進路目標の実現(進路目標、情報提供、進路指導等に関して)

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止になった進路行事もあり例年より進路目標を考えさせる時期が遅れたが、各種取組や総合的な学習・探究の時間、LHR等を有効に活用しほぼ例年通りに進路目標を明確化できたようであった。しかしながら、進路目標に対して適性の理解に不安のある生徒や、進路情報の提供について教員、保護者とも不十分さを感じている結果となった。その結果として生徒が補習や個別指導に積極的に参加できていないとの評価につながったと推察される。

次年度に向けて、明確化された進路目標を生徒自身で具体化するような指導を模索していきたい。具体化の中で自分の適性を顧みる機会もあり、進路実現に必要な取り組みも具体化されれば、自ずと補習や個別指導への取り組みに発展するように思うので、そういった生徒の進路目標実現に向けた取り組みを充実させていきたい。今後もスローガンである「小さな学校の大きな可能性への挑戦」を続け、生徒の進路希望に最大限にチャレンジするような進路指導を行ってきたい。

III 生徒指導および部活動(服装・頭髪、言葉遣い、部活動等に関して)

今年度のアンケートでは、三者とも服装・頭髪やあいさつなどの礼儀についてほぼ100%のAB評価を得た。三者それぞれの取り組みが結果となったと考える。一方で、生徒と保護者のアンケート結果で「悩みや問題、いじめ問題など相談できる教員」がいなくて感じているCD評価の割合がどちらも16.9%、19.2%であるので、生徒が安心して登校できる環境を整備していきたい。生徒の些細な変化にも気づき、家庭と情報共有して連携を取り、生徒の心身のサポートをしていく必要がある。本校生については地域からお褒めの言葉を戴く機会があったので、継続して正しい言動を心掛けるよう指導していきたい。

また、「部活動に積極的に取り組んでいる」という項目に対しては、三者でAB評価が90%以上となった。コロナ禍の中で、感染症対策を万全にしなが懸念に取り組んだ生徒が多かったと考える。次年度もしばらくこの状況は継続することが予想されるので、適切な指導をして有意義な部活動に取り組ませていきたい。

IV その他(整理整頓、生徒の学校生活等に関して)

三者とも、すべての質問項目においても80%以上のAB評価となった。しかし、生徒のアンケート結果で「学校生活が楽しい」「入学してよかった」の項目でCD評価とした生徒がそれぞれ18.5%、13.8%いた。これらの生徒は学校生活で不安を感じているので、支援体制を整え、安心して登校できる環境づくりを進めなければならない。今年度、只見町の協力により山村教育留学生をフォローする体制は整いつつある。学校としても、生徒との信頼関係を強固なものにするために、日々の見取りや声掛けを今よりも大事にして一人でも多くの生徒が充実した学校生活を送れるよう、よりよい体制への試行錯誤をしていきたい。

今年度、アンケートにClassiを活用したが、回収率は生徒が68.4%、保護者が54.1%と低い数値となった。平成30年度は生徒の回収率100%、保護者は85.6%であり、学校全体の意見を十分反映しているとは言えない状況である。より多くのご協力を求めながら、回収率100%に近づくための方策を性急に検討していきたい。